

## ウスメバルの初採捕

ウスメバルは、国内の太平洋側では北海道～相模湾の沿岸に分布するメバル属の魚です。同属のトゴットメバルに見た目がよく似ていますが、体側の黒色帯の形や側線有孔鱗数で見分けることができます。東京湾奥ではこれまでその姿をみることはありませんでしたが、今年の5月に行った羽田沖の桁網調査において初めて採捕されました（図1）。

ウスメバルは卵胎生により3～6月に産出され、流れ藻について移動し、体長5cmくらいになると沿岸の浅い海底に着底し、成長に伴い水深100m以上の海域に移動

すると考えられています。東京湾口ではメバル（アカメバル、シロメバル、クロメバル）に比べて沖に分布することから沖メバルなどと呼ばれ釣りの対象となっています。

前報の「羽田浅場沖で自生アマモを確認 No.75」では、当協会が羽田沖浅場で造成しているアマモ場について報告しました。このアマモ藻場ではメバル属の幼魚が確認されています（図2）。海のゆりかごと言われるアマモ藻場が羽田沖に造成されることにより東京湾奥の生物相がさらに豊かになることが期待されます。



図1 ウスメバル（全長 5.3cm、体重 2g）  
（2023年5月9日 羽田沖 桁網で採集）



図2 羽田沖のアマモ場で確認されたメバルの稚魚（2023年6月12日）